

## 投稿規定

- (1) 論文の内容は、日本及び東アジア諸国・地域における文学・歴史・思想・民俗・宗教・芸術・政治・経済・法律・社会等に関するものとします。
- (2) 投稿資格は、本学の専任及び非常勤教員・名誉教授・客員教授・研究員・客員研究員・助手（非常勤）、研究所の企画・活動に参加した研究者、並びに編集委員会が認めた者となります。
- (3) 原稿の枚数は、四〇〇字詰め原稿用紙に換算して六〇枚前後とします。縦書き、横書きは問いません。（掲載が決定してから二週間以内に印刷用原稿を電子媒体で提出することを原則とします。）
- (4) 投稿された原稿は、編集委員会が最終的な採否の決定をします。
- (5) 執筆者校正は初校のみとします。なお、校正段階での大幅な修正はできませんので、完全原稿で提出してください。（大幅な修正があつた場合は、応分の費用を負担願うこととなります）
- (6) 各執筆者に抜き刷りを五〇部及び本誌五部を贈呈します。なお、抜き刷り増刷は、実費でいたしますので、事前に申し込みください。
- (7) 本誌に発表されたものを転載する場合は、予め運営委員会にご一報の上、出版物を一部東アジア学術総合研究所にご寄贈ください。（「年次別論文集」への掲載を除く）
- (8) 本学は、国立情報学研究所の「学術論文電子化事業」に参加しています。よって本誌掲載論文等を電子化し公表するため国立情報学研究所に提供します。

## 編集後記

本号にも多彩な原稿が寄せられ、総合を標榜する研究所が発行する紀要らしいものとなった。ただ他方、研究所が目指す方向を本号が些かなりとも体現しているかという点、些か後ろめたい。東アジアというトランスナショナルな概念が反映された紀要であるためには、既存の研究枠組みから一歩踏み出した論考が必要となる。二〇〇八年度から研究所は組織を一部再編し、新体制のもと企画・編集委員会も発足する。編集体制の強化は年来の課題だったが、新委員会のイニシアティブによって、独自色を発揮できる研究紀要を目指していく予定である。学内外のご支援をお願いしたい。

（所長 佐藤 一樹）